5月：雪解け水を覗く実習生

11月：カマイルカ掘り起こし

3月：送別会での記念品贈呈

新潟大学演習林ニュースレター

Niigata University Forest Newsletter

新潟大学佐渡自然共生科学センター 演習林

2023年度まとめ号

第26-27合併号　2024年　6月

2023年度演習林の活動を終えて

今年度は、3年ほど続いた新型コロナ感染症対策の様々な制限がようやく緩和される中、従来に近い形に徐々に戻すことを模索しつつ、学生実習や研究などの活動を進めた1年でした。実習については、例えばコロナ禍にオンライン受講（動画配信）に切り替えていた基礎農林実習では、対面実施に戻したことで実習後には参加した学生から、「天然スギの森や、トキのいる里山を見られて大変良かった」といった声が聞かれ、野外実習はやはり直接自然に触れることが欠かせないことをあらためて痛感しました。また7月に開催した一般向けの公開林間実習（新大大学公開講座）の場合、この数年は佐渡市在住の方に限定して日帰りで実施していましたが、今年は本土からの参加者もかなり増えて、「来年は従来通り是非宿泊できる2日間で行ってほしい」といった要望もありました。文科省の共同利用拠点事業の各種実習も、コロナ禍前とまではいかないまでも、リピート校も含めて計14の他大学や専門学校などから多くの学生を佐渡に受け入れて開催することができました。

回収したネズミトラップを観察する参加者
（7月、公開林間実習にて）

その一方で、各実習時には引き続き宿泊者数を制限したり、送迎時に車内の換気をはかるなど、基本的な感染症対策にも気を配りつつ取り組んできたところです。4月の山開きも、従来は外部から関係者を招いてましたが、演習林の教職員と学生だけで歓迎会も兼ねてささやかに開催しました。

今後は、こうした“ポスト・コロナ時代”の運営方法も模索しながら、佐渡島ならではの豊かな自然を満喫できる野外実習をはじめ、特色ある教育・研究活動を進めていければと考えています。

しいたけ原木のコマ打ちを体験する学生
（8月、日本大学の育林実習にて）

さて、今年度のできごとでは、とくに2024年元日に発生した能登半島地震のことに触れておく必要があります。震源に近い佐渡島でもかなりの揺れを感じ、小木など島の南部を中心に被害が発生しました。演習林でも山へ上がる林道（市道）の一部が大きく崩壊し、現在も通行止めの状態です。また、当日は宿舎に職員や学生が不在であったため、幸いにも人的被害は免れました。もちろん津波時の高台への避難路は完備されていますが、もし今回と同様な地震が夏の最盛期に発生して津波がすぐに押し寄せたらと考えると、心配の種はつきません。毎年多数訪れる学生が安心して実習や卒論・修論研究に取り組むことができるように、とくに最近頻発傾向にある地震時の安全対策については、いまだに平屋建ての古い演習林の宿舎など施設の増改築も含めてさらに強化する必要があります。　（演習林長　梶本卓也）

山の神へ参拝して安全祈願
（4月、山開きで）

長い間お疲れ様でした（ご退職のおしらせ）

今年度、4名の方が定年で退職されました。谷口憲男さんには、38年間と長きにわたり技術専門職員として演習林のおもに林道整備などの森林管理や学生実習のサポートに携わってもらいました。また、得意な木工技術を活かして天然スギやアテビ（ヒバ）を用いた家具やコースターの作成などにも尽力して頂きました。柳屋喜和さんには、約10年間技術補佐員として施設管理の業務を中心に携わり、とくに電気工事の資格をもつことから演習林内の設備や物品などの修繕で活躍してもらいました。石塚しのぶさんには、約10年間事務補佐員として事務手続全般の処理に、梶井京さんには、約3年間庁舎全体の清掃や実習時の準備などに携わってもらいました。また、石塚さん、梶井さんのお2人は、ときには佐渡研の悩める学生の相談にものったりと、頼もしいお母さん的存在としてサポートして頂きました。

演習林スタッフ一同、この場を借りて厚くお礼申し上げます。本当にお疲れさまでした。

（演習林長　梶本卓也）

谷口さんと石塚さん

異動のご挨拶

日頃より佐渡演習林の運営にご協力いただき誠にありがとうございます。私事ですが昨年10月に演習林から同じ佐渡センター内の朱鷺・自然再生学研究施設（里山領域）に異動することとなりました。演習林には、学生のころから通算7年半という長い間大変お世話になりました。私は講義もあまり真剣に聞いたことが無く、決して良い学生とは言えませんでしたが、研究室配属後は楽しそうに研究の話をしている先生方を見て研究者っておもしろそうだなと思い、いつしか自分も里山の研究に没頭していました。

調査圃場の造成

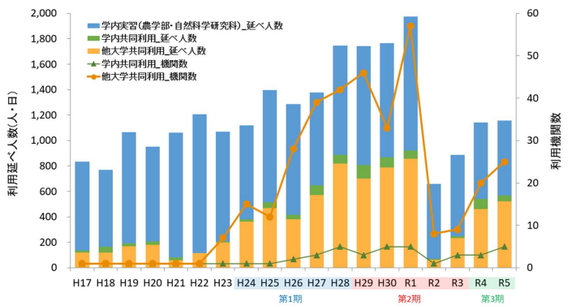
また、演習林の職員として勤務するようになってからは、植物、爬虫類・両生類、昆虫、菌類、フラワーデザインなど本当に様々な分野の実習に携わらせていただきました。研究者の知り合いが少なかった私にとって、演習林に来られる先生方のお話はどれもとても楽しく、また大変勉強になりました。着任当初は博士課程の学生だったこともあり、至らない点も多かったと思いますが、これまで共同利用事業を運営してこられたのは皆様の協力があったおかげです。里山領域への異動後は、引き続き佐渡島内を調査フィールドとし、里山における人間活動がそこに生息する生物群集や物質循環機能に与える影響について研究を続けていく予定です。最後に、演習林の教職員の皆様には共同利用業務、調査研究、私生活などで多大なサポートをいただきました。どうもありがとうございました。　（特任助教　古郡憲洋）

地表徘徊性昆虫の観察

2023年度の演習林利用状況

今号では、編集担当の不在によりニュースレターの発行が滞っていた2023年度の総まとめとして、入るかぎりのスペースを使って1年間の実習、研究、イベントなどを紹介しております。また、2023年度は”ポスト・コロナ時代”の初めの年ということで、コロナ禍を含むこれまでの佐渡演習林の利用状況についてもご紹介したいと思います。

（特任助手　蕪木史弦）



H17~R5 共同利用実績の推移

令和5年度 佐渡演習林利用実績

	実習件数	利用機関数	延べ人数
共同利用実習（オンライン含む）	12	22	522
他学部（学内共同利用）	2	4	47
農学部・自然科学研究科	6	2	623
	実習計		1192

特集

『佐渡島の植物』写真集 2023

2023年度のまとめとなる今号では、毎年恒例となっている佐渡島の植物写真集をお届けします。今年度は5月9日～11日に、単位互換性講義「島嶼生態学特論」の佐渡実習が開催されました。実習中に行われた、植物写真家のいがりまさしさんによる野生植物の写真撮影講座では、被写体となる植物選びからカメラの使い方に至るまで、様々なポイントを学びながら、各々の学生が撮影に取り組みました。そこで生み出された自信作が、こちらの22枚になります。それぞれの学生の工夫の跡とともに、美しい植物たちをお楽しみください！

（特任助手　蕪木史弦）

「霧の中に咲くスミレの花」
新潟大学 修士2年 渡邊匠海

「星降る昼空」
新潟大学 修士1年 佐藤楓

「シラネアオイ」
新潟大学 修士1年 石原佳紘

「小さな捕食者」
新潟大学 修士1年 住谷翼

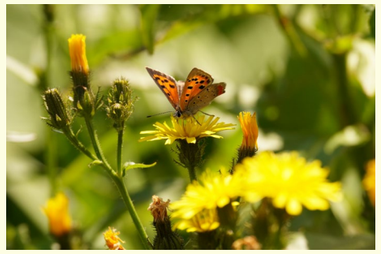
「ヨーラメ」
新潟大学 修士1年 鈴木朱音

「春の訪れ」
新潟大学 修士1年 高木芹菜

「主演」
新潟大学 修士1年 河﨑健太朗

「オリジン」
新潟大学 修士1年 小林幸平

「山の中の紫」
新潟大学 修士1年 塩谷翼



「黄色のご馳走」
新潟大学 修士1年 田中秀英

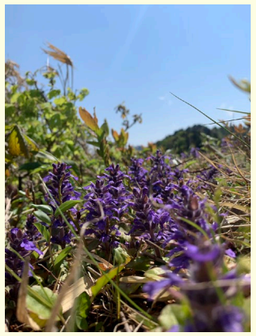
（無題）
静岡大学 DONG HAO

「初恋の恥じらい」
静岡大学 中田悠登

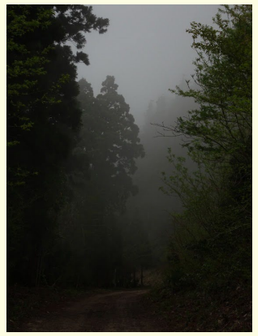
「Quiet Flower」
静岡大学 WANG XUANWEN

「クロモジ天国」
静岡大学 田中湧也

「蒼」
静岡大学 倉本輝



「舞踏会」
新潟大学 修士1年 古川舜



「仄暗い森」
静岡大学 谷瑞木

「清楚」
新潟大学 修士1年 河野元彦

「女王の目覚め」
新潟大学 修士1年 熱方悠人

「力強く咲く白」
新潟大学 修士1年 金澤真希

「新種発見」
新潟大学 修士1年 市橋柊威

「キクザキイチゲ」
新潟大学 修士1年 齊藤建

新潟大学演習林ニュースレター
編集・発行：新潟大学 佐渡自然共生科学センター 演習林
〒952-2206 新潟県佐渡市小田94-2
tel: 0259-78-2613 fax: 0259-78-2929 e-mail: sadoken2011@gmail。com
ホームページ https://www。forest。sices。niigata-u。ac。jp/

ホームページ　ブログ